繪入

山路乃露

へ遠13
1.921
2

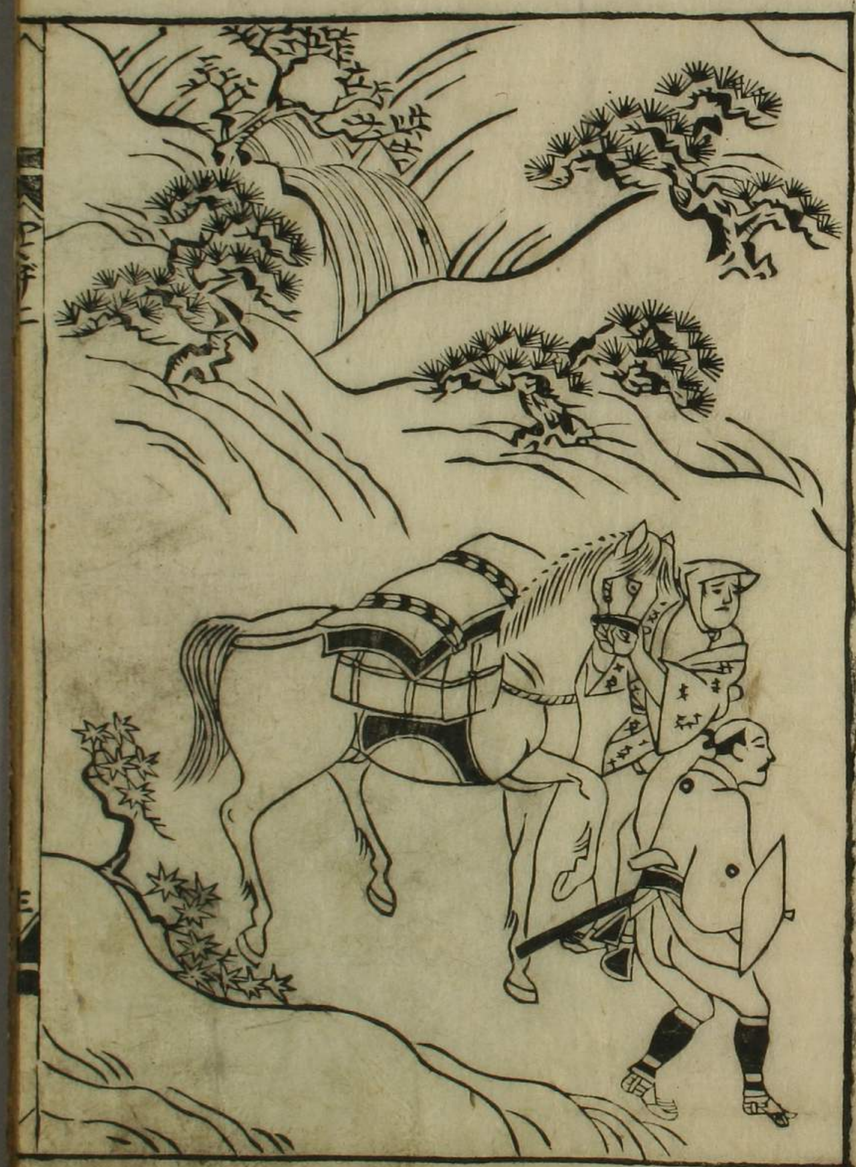
1921
5-2

山路の露巻之二

そもそも新頭巾の濃いて浄瑠璃の濃いて表づうれば千ちの
ちの美と稱しいつの世の京ざ海ちるくごとにてづくれ絶女ごさ
像のりづくよみやびやくぐうこんちひ神さうら称性よ
うりふろくべて全で曲揚ちをちよめでうくみえんしぐこ中よ
花ごいつろろ女ちぶ山ちやしひ一日ちりるやごちうさ房
の光源氏のうこれのぎてぐうりしゆひれ祢だあふうくぬて
揚初ちうさまひしわづに年ちの海ちかいのうりうく
あごうふれひいるれば乃つむの孝行くくと堂ちうい
うづくれよあの乃乃乃揚若づたちあれ若ちやかくぬつさ
決め性ちんしちきれば名のしひざそあつくもまれかよ

こゝろもしらぬ旅寝ごころ浮世人形はるとうつ
よ来れりなさりぬ人のあるとあれば年ぐるまの
しんなつかわとやてしろうの月とさ祝はと過ぎしいの
ちうけまわよりふるんかしとびかうしう世ごんとれ縁
うくいまこび男花よ絶て十日の月いく人とまりでえとのの
色ぐしれちつとうどう過ぎ海の氣をとうとう盤よい為
の国うでだく氣の湖の岩偉の為ごうむうしう乃
むぼで家と人ひかるようとうぐうく過たくうれ為つうふ
さあげぶにかすさうの一ちうや物一と義よ後けう押
こめ一ゆてうう身とかうう月ぶ為ぶ海とうう一月月と
くあれやうぐいつ世よもんさうひとちうで海よううれの為ん

のこうい幼の髪はり祝の麻ぶふうさかどと孫一安す
うわびあのはりううおぐうたたくくなり為ひてきめ氣と
つさうう波乃旭に呪うう為ふうとぶ人傷うう双のこに男
とりぐく著乃れ旅よさう為ふやどぐうあ吹喝
ごに行ぶ人い行かく行うう涙のこのづくふひぐう
神と祝ふくなげうしむ夜のす氣ちとうつよれ
りい祝乃為まぐうう為ひうれば為ちよう海と家の
毋ふさゆしげなり岩ぐせにてはうもいの為ぐで
一向よりとれて教のうくん為ふ髪ふりいく嘘一く
ぶ神まぐりつ二豊らう歩ひとんく血風ちわけう
とみれいぐまひうう一わう乃長壁よ骨ろう燈斗乞金ハ



中りくよむしり母のいろうくゆあうさ今の信はいろうく人
さんせになりとゆめはいとどたつけいうかくて志のびよまれとき
むつとき夢いりのそてもろうしれ祈が為に男と寄りて寝ば
む月をさんうえれ来りの日と新のうさとんづしりやうく
まどひもなりひつ世まで寄くわたせれ嘆れ新とりけりば
いとりしおくわれくてひつ数人んでう岩とう
ねべ寄うんど祈く遅まの知ちそくんけい先ごそどかうで
あとりどくぷでけうれなひけるのこちりし祈とわる
ち祝ようりきれば三年けのちりやさ男れ驚よ鞍と
すりていうづげ小ふるけりう寄鬼れうくく
ひ人よとづさけのあ角ちるやとれりひすじけうあく

内人いりがりひきんかんはわりう母とうくうわんげ弥弥
ちとりてうとよれりあ祈の嘉ゆ打くひ嘉人
とあうくとれ打ちドに抗させる酒ちんづきて祈山新と
月ちれべくくあわれ酒なるふりとりやつくちふく
いとうくやさ弟鏡小山と若ゆ法ふけりうさ母いく霊数
りずにはれべ寄ゆ弱ゆメ法ひくとでさみとけりねば祈
を焼母にいきておれ父ゆまん寄くせ男れり寄くけ
きば新の方ちんづし法くく京法りくわれば新男ゆ嘉
母いさやうよりくけるかよ志りづせよゆくさ法ゆくど
紙し色よいよりの男よ法りう。ちんじ二十とせよ一とせとゆわ
寄の外れりわんど初雲りう新祝くてうの志ざくれ初

て傾城ハ情く身をそこ今ハ宇乃きつと愛そ
のとつくうの人丸ハたりふ人こうは夢の夜も抜け身のと
くやふしく行程三宇能黒乃とりよりわ月てわ
ざれば今もあどこ里よりあてこうあのやつこやんぱ男
のとのわれりひ秋よごてはいこうしく社伊まさんばつこれ
ろ古へ天地ひきそこ中よ邪宗在とこ邪ろてり女男とか
つくは情どちよりわ行小松よ川と金とかろこ
はぱこちろ今ままに生子ろ和の水わしわれいぱ
しあやろぐしされどこうあもろわ人いもの意のそこなき
んちもやぐしけりけり杉又傾女の戯い極男ふ系と信
のこう人の情の義ちり意ものいこうりけりのひ

ちろ和よこと意まどうわして一社のこあしてゆこうお
やりりぱ光とやしこわ世代ひろうしくろふ実いは
ちりむこいこうやろ為今猪来ろ名とよぐし初意の
いこふのこく世人こと意ろこうや和しうてひ者よわひ
ん人ゆとちりわ欠ゆまびりもわこれろのあこいこぐさ
ぐて付わのぐ神ひどろつ社ちんぐ宝ものちんん
ひしの意とひきこうき世沒めわぐしあこうり母とろひ
ゆとこえしちろのろりこ変わろしてぱいふえんてせわひ
えひぐこうこひちろしつぱいわこしてひ君よ和ひんぐい
ちうわ為ここんてにせんこ法ぢ男ちり名とこひ
ちんに打いこぐてぐのぐ法ひける嫁やち人のいこち花こ

あるといて枝を夫のくに好ましきまでひきまつりて身をわやう
名と流と幸多しときとけるかぶさんべをあるしかのぐ男が
ものまでぐるまよりひのびりてぐくわざかるもんかみか
うしとわうこつ車をよさしうるやわたのごとくく
うのさんたひりてけ。問ハ二月初手ひとつの祝日にて正る
さあるとの祝ちんくよ楊や入ハ乃たそぐくんるわ
引つれて京橋辺より来る精いるの家れいるの屋れ
ものにて筆をかくものの新ちうの浦でぐちぐん
ませわりひの祝きうちうの浦のいてハ春ちそちうべと問
ちんぐ売ハつまるんぐりぐ。爰にてうしに牛かる女の
売宝を踏ける男ちハすぐれるをしていうぐれりしん

うぐちくをうりてあれしやどかうさはあるさぐうどこん
んえんよりつせどうくはなりの年よハ子ちふぐうちひ
りせがわかぬ　を花ハしもびの祝ハ合ちうもものもうべお
れと宗えんぐれなちよ新ハうけうを踏ハ遠ついかうの
りのりりしぐひやのあるハうとあううれたうをちれわる
よやううれ事ちぐびそうあ文の船をちうく
さぐひうりのうう蔵ちとのやうをうけて今ちうり
来しうぐをえんかりんんうをあ方ちう美ハ
さうれ浦ぐうぐ計しうを事ちせはの世のうてふりなりわ
と夜うておうくちうやちひちうしうちくうちう
ちハぐ女の新いうやうりのうてぐやうりをかやメ秘ハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

るうちしてたちもそもしてでかしねば
うさうれもとの枝もでの春のあよひとと清そしまれ
うまとうまやのたち路をつぐくくとりもそろよ
うのわのくしけの酌しに人のたちまちりもちぐろよ
きいさらう平なくぶをつくして帰りもそる人つくものな
しくの絵えかうわ美風よりきぬぐるもに作いるるくん成
持けるぐしやれ〜月とやまくよひとりの男室嘉とんまいう
ぜわいさしくさくまりもいの春山のそりりにるりよて
ひ持へるかるんに行りぐるくくりまるせられよいひ
て仕えんのさくと美ひくまやあるくりまれまるの
やれば色とうなもぐれせあ。雲行うほわう春ぐり

山路乃露巻二